

## 2011 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	松本 悠子		
NAME	MATSUMOTO, Yuko		

## 1. 研究課題

（和文）移民とナショナリズムー米仏比較ー

（英文）Immigrants and Nationalism—Comparative History of The United States of America and France

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

アメリカ合衆国とフランスは、ともに「自由」、「平等」、「民主主義」といった「普遍的」といわれる理念を国是として、19世紀以降、国民国家として歴史を紡いで来た。両国の一部知識人は、19世紀、お互いを「姉妹共和国」と呼んでいたのである。しかしながら、両国の国民統合のあり方はこの二世紀の間に大きく異なっている。それはなぜだろうか。このような問いのもとに、両国の比較史の研究を試みた。国民統合とナショナリズムの比較をするにあたって、最も明確な違いを示すのは、両国の移民、少数派人種集団に関する思想や考え方、日常における対応の違いである。まず、初年度は、在外研究で得た成果をもとに、現在に至る移民政策の違いを端的に示すものとして両国の移民に関する博物館を比較した。まだ未完成的な研究ながら、両者を比較して、移民の文化を認めるというリベラルな姿勢で始められたフランスの移民博物館のありようが、むしろフランスの排外的な統合の政策を明らかにしていることが明らかとなった。2012年度には、論文「第一次大戦とシティズンシップ」において、アメリカ合衆国が国家の危機を向かえ、初めての国民総動員が行われる過程で、排外的傾向が強まった一方、多文化的傾向を巧妙に政策に取り入れる統合のあり方を検証した。更に、シンポジウムの報告「racismとracisme」では、移民政策における人種の考え方の両国の違いを分析した。今後とも特定課題研究の成果を基盤に更に比較し研究を進めて行きたい。

(英文)

I made a comparison between the United States of America and France in terms of the history of nationalism and integration of immigrants. In 2011, I analyzed the history of constructing the French museum for immigrants and compared it with the one on the Liberty Island in the United States. In 2012, I reexamined the U.S. policy of national mobilization during World War I and analyzed how the U. S. government and local governments utilized the existence of ethnic communities. At the symposium of the Japanese Association for American History, I proposed the significance of comparing immigration policies of U.S. and French governments in order to understand the difference and commonality of the idea of racism.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

松本悠子「パリの移民史『博物館』をめぐって」『紀要：史学』中央大学 第57号 (2012年3月) 71-91頁 (査読なし)

松本悠子「第一次世界大戦とシティズンシップ—国民総動員という『危機』」『アメリカ史研究』3.5号 (2012年) (査読あり)

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

松本悠子「racism と racisme—20世紀前半のシティズンシップと人種に関する米仏比較」2012年度アメリカ史学会大会シンポジウム(2012年9月23日、於一橋大学)

【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

研（様式16-4号）
